

序



吾^{くわ}邦^{ぼん}國^{こく}見^み望^{ぼう}を^を題^{だい}を^をハ^ハ筆^{ふで}を^を人物^{にんぶつ}

を^を狂^{きやう}画^{かう}を^をその^{その}人^{ひと}を^を孩^{がい}見^{けん}の^の位^ゐを^をわ

む^むる^る事^{こと}糖^{とう}飴^いを^を中^{ちゆう}に^にま^ます^すは^は孝^{かう}を^をつ^つと^とお^おり^り

天^{てん}地^ちの^の正^{せい}氣^きを^を得^{とく}る^る国^{こく}を^を生^{せい}れ^れ

人^{ひと}を^を我^{われ}國^{こく}を^を人^{ひと}と^として^{して}人^{ひと}類^{るい}を^を遠^{とほ}

一^{ひと}是^{こゝ}を^を中^{ちゆう}國^{こく}を^を生^{せい}る^るの^の貴^{たか}を^を

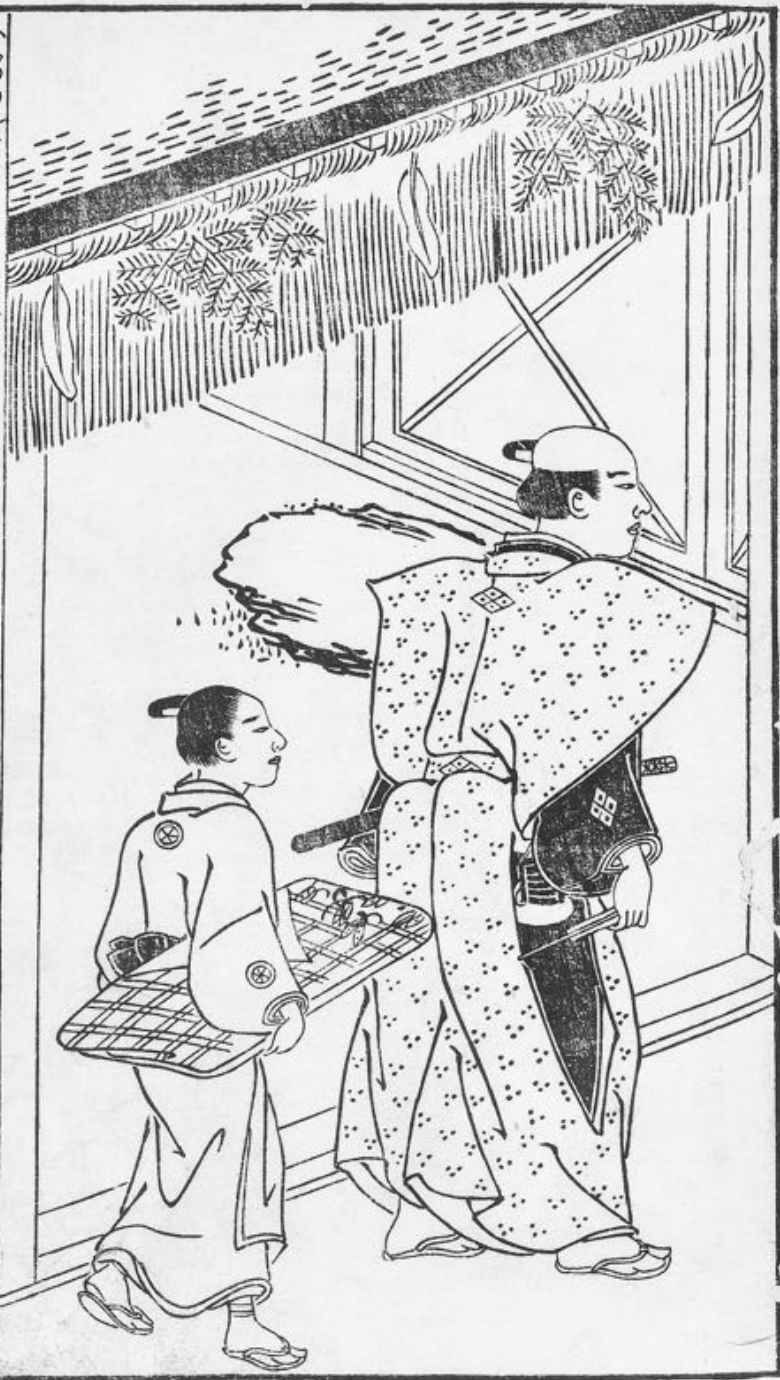


2015.2.19

今乃民ニツの大幸有五
 一、行を以て國よりけりしものをよき樂
 二、世に有る而已、國外の浮遊を遊人の
 三、そのよきを以て畫外の深意を助る
 四、業はなほ其浪言を交たまふは
 五、寢居ひの糸
 世居書 半道外人書

畫本圖見山卷上目錄

- | | | | | | |
|-----------|-----------|----------|----------|----------|----------|
| 大日本國 | 大琉球國 | 扶桑國 | 後眼國 | 老國 | 三國 |
| 總領の
風俗 | 國君の
風俗 | 麻の
新 | 食の
新 | 食の
新 | たこと
新 |
| 高麗國 | 韃靼國 | 白城國 | 紅毛國 | 其身國 | 狗骨國 |
| 朝鮮人
來朝 | 山嶺の
新 | 科人の
新 | 酒妻の
新 | 首引の
新 | たこと
新 |



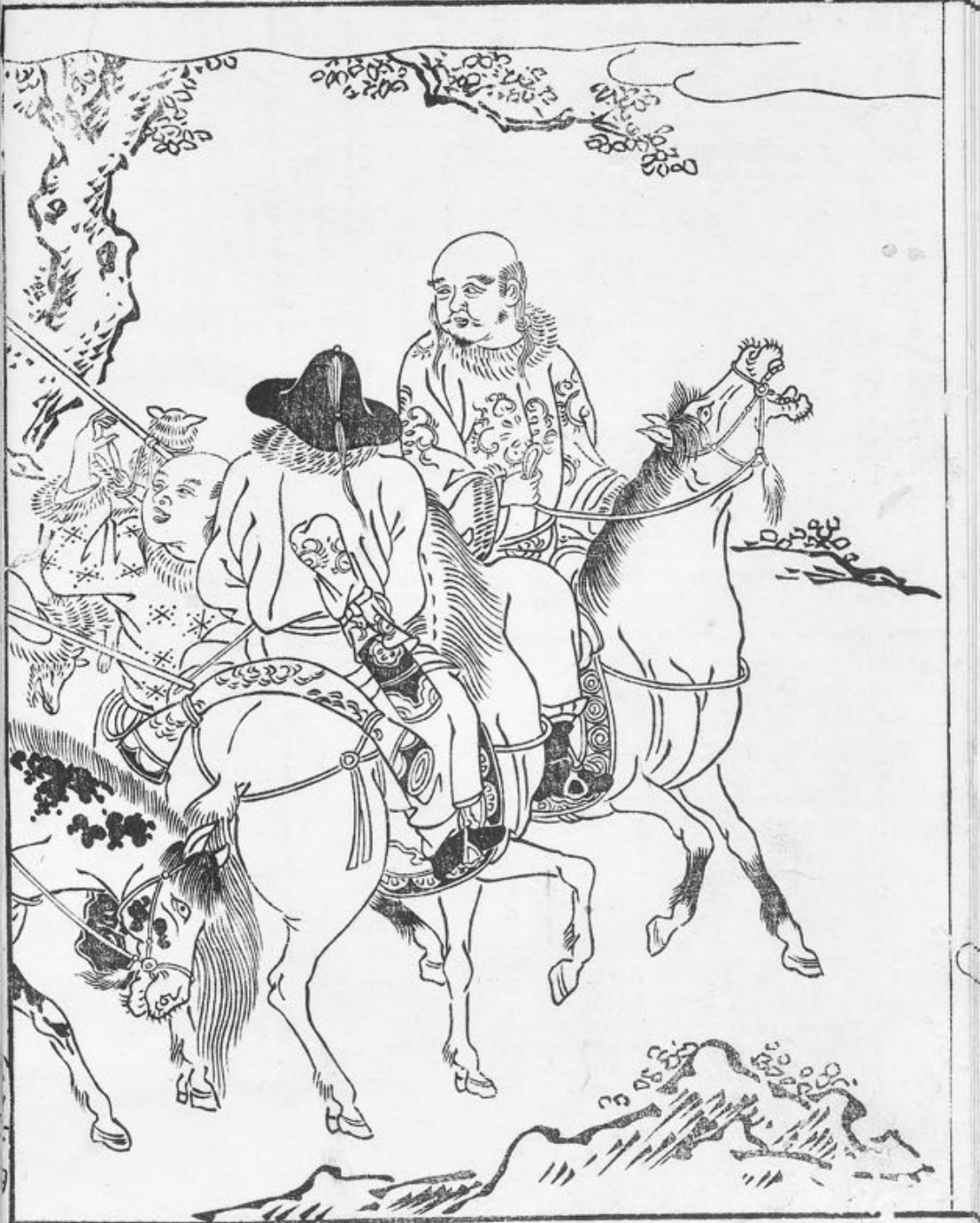
大目叔父人の心通おして五等と名を假しむてか乃つううなみかあひもを
 行む所儀うりいさだよきやのまゝ。○おれは法ハ今さうらふもをさめりた
 山のあぢり子小式部ふしりりいさだばらんみくさめりやふつさる法もあこ
 丹後れ母をハ山の宗根のそとをよまもてあれうこのおこなうらういさだ
 まむまはれまほごもふんぬあまのうきとてあまめハきでらちれぬくあぢり



この藤園 ときかちの如く鎌倉の頼朝は頼朝とてはハ基をてらり今ハそとてカアケ
 りりあつて是小治政の如く是の如くしといふハ一〇佛人の来聘せし
 時或人お咎としては大使お小治政の如くしといふハ一〇佛人の来聘せし
 日本の大也といふて彫れ一文字と上面よりかきかへてはさよとて佛人まうて
 たどるべきの玉にたておきてははばたかありまははの如くすと久かちてといひとへ

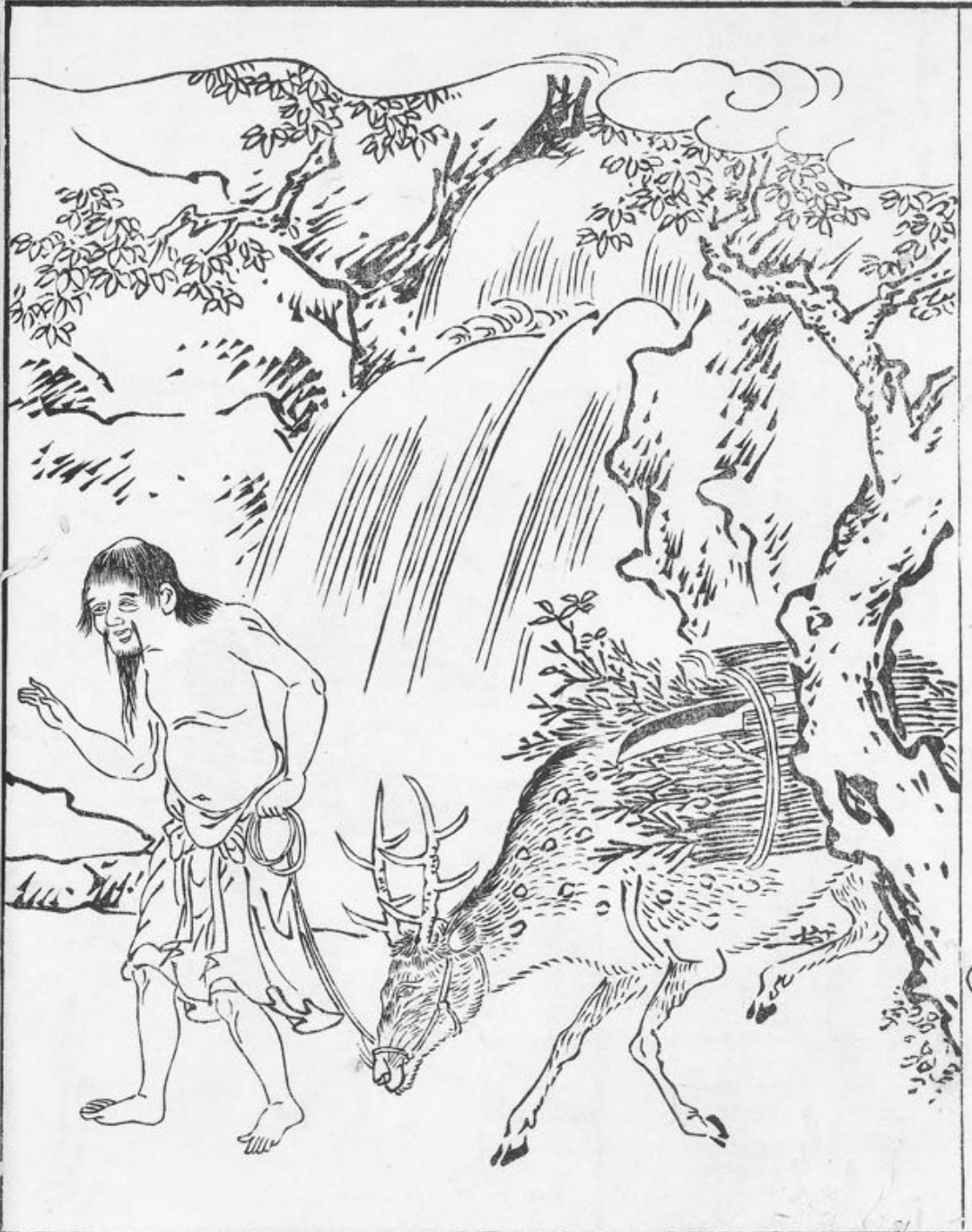


大流球廻りてあるの流すなり日本つらち自堂あり四中をまわし日せ
 の凡俗をまわし和歌をも吟詠せむいふのまじりたる人ありて名をあらわ
 備置ハ権老の家来とあわれ義経の如の身ハ流石にあかりれ江に打ぬがまハ音響
 ありてある人あり又人ありて名をあらわれ流球玉ハまはらして子供までも能くあは
 大流のまはら流成ありて名をあらわれ流球玉ハまはらして子供までも能くあは



韓輶 大回して言ふ山々く極むまゝ今れ流船の先祖けまふりあて今
 中華の凡俗は小同一男はうらのめぐりそそのまて平どのまくりの大めのみ
 小のめん小海と老はけしやらずおしてお乃が種類とにま姓あつたつ、
 人れさるるおあつて彫板風おせしもおわどお之志くれお我物まそハ小見の
 からもけしおまはせぬまらるるべし

扶桑國 古き書小出らる玉之板をとりて 極く玉五これより 扶桑樹を
 も実樹子ぬくみして 赤玉人おれと 吟り小劉宋北武帝の時けいひん玉の
 傍に 必小なりて 見るま皆麻を 飼て 牛馬の どのく かつふ 麻れちと とうと
 つぎと じり 〇子 麻とらふ こと どのの 初り あり 麻か 小ま じり 馬と じり どのの たり へ
 けい 玉のか じり たり



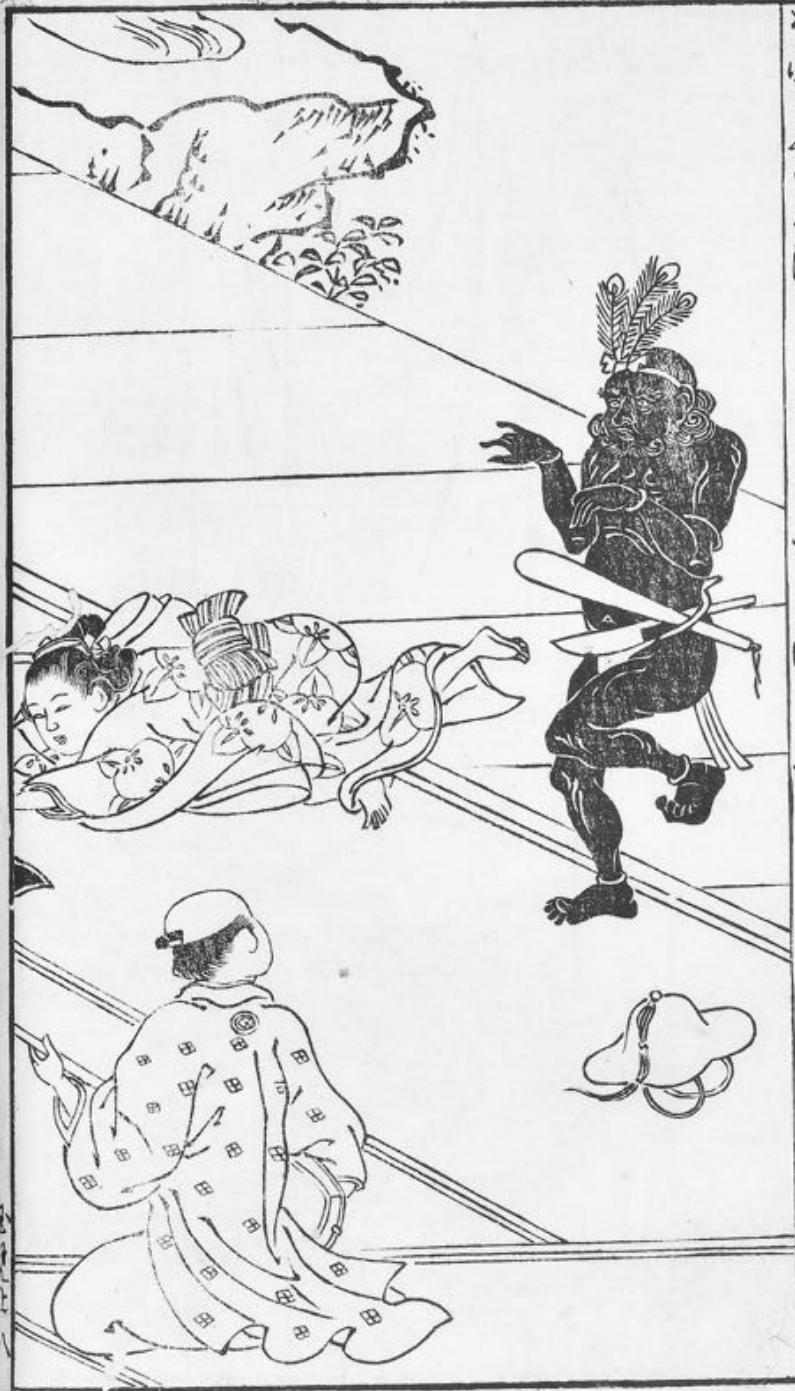


石城 今ちんそんといふ處に古地を築きしむる後の
 そとに變せざれば耕人せりよの跡おつらに理窟のハ解をせらふ
 遊むる女んはうらぐらりしとこの今れ世の解はさるゝ小遊遊あはあつとこ
 旅どれハ或人の當の物おけるむむの西遊なるやちちあらんうち
 きしものうらぐらみの枕しどもあれは腰のまよから理窟の身あはるや





後眼回 うちらのぐびきどぎま目あるあへ凡俗のめんよおれ
 〇いあてをせよまうーまろ人をまうりてまへいこまろおとつん
 眼力もささあふやあけいんをさあんとく石がとけとんとあてをさうおまおのびよ
 かつすさまうたろぐ人をあててあてたりおあさあへともおのいさすけいんをさ
 まていふゆよたとゆいも話すあてけいんのおあるも言さくやあぬまうで



紅毛圓人物色よくびびるあはく短く眼は沖小白き髪はより
 毎の毛髪は私事な詞名鷹と名とあてのたは新ハ撲文字は四字あり
 二字のふくめて四十八字もあはけ外文字あり。○長崎小通の沖は沖は新
 極好むむくは海難とるは女郎の面白くぬ極びるより。○女は田舎女の
 ろれに糸くひすのたりと切をひらるはゆりくもあはく。



老を廻いし人の熱堂をくま人楡皮かして人と申すはたかみおろす
 凡念おほくうらうらひ水海に響けり吸ふ小象牙全銀と世に〇をろこ
 湯湯れ海をいふ乃人よ出入を英海とあるまひり小象より吸られぬ礼之と
 とくむき人のおのひとむきた人と鼻であいらむ口の名代もきり多物の不と
 うち美れ日増とだん一楡皮と鼻であいらむ口の名代もきり多物の不と



三魁圖 かしらツホしてカハツあり〇六甲の身あてうはは出さそりわけ
 れとかいど人のちあひぢばううんるとまふて六甲の身あて後と
 なるせはらういものお始あるうぬうへはあの人弱のうげ急上り
 撲目の時非あさていげ急をるを弱もかのが難と知る海田ま
 ちと六甲の身あてあれとて



狩野の歌 夕八人かえりぬいぬことむたれどくわてぬせは女八皆人之
 宛おまむ○大あをむかひあふよりけあふ入あれりたるん四書笑法中回
 大之姓猶中之姓猶人之姓于と孟子小出るとりけりあれはのみやうの藤お
 ありけ量の神ハ事とせあふはゆくと里凡ちんくゝるそのまれの書柳で源人と
 うちほれくは風情よさも似たり

